

2023 年度岡本ゼミによる海外フィールドワーク (FW)

の成果報告

政策学部岡本由美子ゼミは 2011 年度以降、ゼミ活動の中心に海外フィールドワーク (FW) を据えて来ました。今年度は、開始以来、13 年目になります。新型コロナウイルスの影響は解消しましたが、アフリカへの航空運賃高騰のため、3 年生のウガンダ海外フィールドワークは引き続き、オンラインとなりました (2023 年 9 月 6 日～11 日)。しかし、このようなアフリカへの渡航費用の問題はすぐには解消されない可能性が大きく、かつ、演習 I から演習 III まで学んだ事を海外の現場で確認できないのは大変な損失であるため、今年度は 4 年生のみ、ウガンダについて学んできたことを実際に体験できる可能性があるフィジー共和国で海外フィールドワークを行いました (2023 年 8 月 22 日～29 日)。

ウガンダについてはオンラインでの海外 FW を余儀なくされましたが、その成果報告会は、今年度もまた、ハイブリッド方式で開催することができました。2023 年度 10 月 28 日 (土) の午後 3 時から午後 5 時半まで、同志社大学新町キャンパス臨光館 201 号室で開催致しましたので、以下、その概要をまとめます。

冒頭、岡本より、ゼミのテーマ、特徴、及び、今年度のゼミ活動の概要を説明した後、まずは、3 年生のウガンダに関連する 3 つの班 (NUFLIP 班、コーヒー班、エコツーリズム班) からそれぞれ、15 分ずつ、発表を行いました。その後、4 年生のフィジーでの海外フィールドワークの成果報告の発表を行いました (当日のスケジュールに関しては、文書の最後の補足欄をご覧ください)。

最初の報告は 3 年ゼミ生の NUFLIP 班からでした。対ウガンダ政府に日本政府から供与されている ODA の中でも、非常に高い評価を受けている北部ウガンダ生計向上支援プロジェクト (NUFLIP) を実施する開発コンサルタント会社の株式会社 JIN とうちのゼミが協力して、北部ウガンダでラジオ教材を作成し、ラジオを通して、NUFLIP 事業のエッセンスを住民の方に広く普及させていく可能性を探りました。具体的には、NUFLIP 対象農家さんと非対象農家さんそれぞれ 10 人ずつアンケート調査を実施しました。その結果、次のような非常に興味深いことがわかりました (2 点)。①ラジオ放送を聞くのみならず、自前で教科書を含むラジオ教材を購入してまで、ラジオを通しての新しい知識の習得に非常に貪欲である。②NUFLIP では単に野菜栽培技術や販売方法を教えるに留まらず、ジェンダー平等の重要性、家計管理手法、及び、食料の安定供給の方法等、収入のみならず生活の質を高める方法についても多くの研修が行われているが、NUFLIP 農家さんかどうかに限らず、後者の生活の質の向上のための知識の習得にも農家さんの学習意欲が極めて高い。ウガンダ北部ではまだ、テレビや PC はあまり普及していませんが、ラジオは農家さんの 80 パーセント以上は所有しているため、ゼミ生たちには、改めてラジオを媒介とし

た教育の普及の重要性を知る機会となったようです。来年度以降、どのような展開ができるか、楽しみです。

次は、3年ゼミ生のコーヒー班からの発表でした。コーヒー班はまず、演習IIで習得したプロジェクト・サイクル・マネジメント（PCM）の知識を活かして、女性コーヒー農家さんの問題・目的分析を行いました。今年は女性コーヒー農家さんの収入の低さ、及び、不安定さを問題とし、その解決を目指すプロジェクトを提案しました。アマルティア・センの文献を引用しながら、開発において男性のみならず女性も安定的な収入を得ることの重要性を見出し、かつ、25人の組合農家さんを対象としたアンケート調査結果から、気候変動問題がコーヒー農家さんに甚大な損害を与えかねないことを見出しました。このことから、コーヒー班は、女性コーヒー農家さんがコーヒーの生産・販売のみならず、天候に左右されずに安定的に収入を得られるハンディクラフト生産を提案しました。今年度は、昨年と異なり、女性コーヒー農家さんがすでにもつ技術を活かし、かつ、素材も現地でほぼコストをかけずに作成できるもの（具体的には、コーヒーのカップにつけるスリーブ）を発注しました。

3年ゼミ生最後の発表は、エコツーリズム班です。2022年度から、うちのゼミとマバンバ湿地というラムサール条約にも指定されている有名なエコツーリズムサイトを管理・運営する現地の団体を繋ぐ人が辞めてしまい、コミュニケーションを取るのが非常に難しいのが現状となってしまいました。しかしゼミ生は、今年度も何とかやり遂げました。エコツーリズムの成功の鍵は自然や環境保全に興味があるツーリストに如何に訪問してもらい、かつ、金銭的に貢献をしてもらえるか、にかかっています。その観点から、今年度の3年生は、ウガンダに在住する日本人、または、ウガンダに度々、出張で訪問する日本人を対象にアンケート調査を行い、どのように日本人観光客の数を増やせるのか、その方策を考えました。その結果、何とウガンダに長期で滞在している人こそ、あまり訪問したことがなく、その理由は、情報源に限られることでした。パンフレット作成等を通して、現地の多くの日本人にまずは知ってもらうことが肝要であることが明らかとなりました。これに加え、一度、訪問したことがある日本人の7割から8割くらいは、もう一度、訪問したいと考えていることが明らかとなりました。つまり、リピーターを増やす努力をすることの重要性を知ることができました。エコツーリズムの第一の目的は環境や文化の保全であるので、新規顧客の獲得よりもリピーターを増やす方がより望ましいと言えます。

最後に、4年ゼミ生による、フィジーでの海外フィールドワークについての報告です。本報告書の最後に掲載してあります日程表からもおわかりいただけるかと思いますが、日本大使館、JICAのような日本政府関係機関のみならず、現地の大学（南太平洋大学）、エコツーリズムサイト、日本人社会起業家が契約するカカオ農園と工業団地に立地するチョコレート工場、フィジーの離島、アンバサ村等、短期間で非常に多くの場所を訪問しました。その中で、フィジーで最も印象を受けたのは、フィジーのエコツーリズムでした。4年生は、まず、南太平洋大学での教授の講義に非常に感銘を受けました。フィジー政府に

よりますと、外資主導のマスツーリズムは利益の多くが本国に還元されてしまい、かつ、大量に出る廃棄物問題に悩まされているとのこと。その問題を解決するため、フィジー政府は、現在、環境や現地の文化の保全、かつ、女性や社会的弱者の参加を可能とする、つまり、現地の環境維持と経済発展につながるような、エコツーリズムを推奨しているとのことでした。実際、4年ゼミ生は、フィジーで大変有名な、CBO ベースのエコツーリズムサイトを訪問しました。その結果、そのエコツーリズムサイトは20年以上も、現地主導で存続してきており、かつ、女性も男性と同様、様々な点で活躍している事に感銘を受けていました。ウガンダでよりエコツーリズムを振興するために必要な要件がすべてフィジーにありました。大変に勉強になりました。

2022年度は4名の国際開発、又は、ソーシャルビジネスや環境の専門家の方々にコメントをお願いしました。株式会社JIN 事業部長で開発コンサルタントの山下里愛氏、JICA アフリカ部アフリカ第二課の宮崎充正氏、ゼミOG（10期生）で元リクルートシンガポール勤務の若林紗和子氏、そして、ゼミOG（13期生）で現在、環境省地域環境局地域温暖化対策課脱炭素ビジネス室勤務の田中優理香氏です。ゼミ生による活動報告後、この4名の専門家の方々から、コメントを頂きました。

大変好意的なコメントを頂いた一方、様々な改善点の提案もいただきました。NUFLIP 班に対してですが、何故、ラジオ教材作成なのか、もう少し、議論が必要であったとの意見が出ました。問題の解決に他の方法はないのかどうか？コーヒー班ですが、提案に至るまでの分析プロセスがしっかりとしていて、わかりやすかったとのコメントをいただいた一方、提案がかなり限定的になりすぎていないのか。もっと、別の方法はないのかどうか。もっと、色々な可能性を探ってみる必要性もあるのではないのか。エコツーリズム班ですが、リピーターも必要だが、やはり新規顧客に繋がらないと、あまり効果はないのではないのか。そして、我々のカウンターパートである現地団体がこの5年間の間にあまり進歩していないのではないのか、といったような手厳しいコメントもありました。

しかし、どのコメントも納得できるものばかりで、本当にありがたいものです。本分野の専門家に多数お集まりいただいて、ゼミ生が行ってきた活動成果を報告でき、かつ、それに対する忌憚のないコメントをいただけたこと、本当に良かったと思います。

今年度もまた、ウガンダには実際に渡航ができませんでしたが、これまで現地で築いてきた繋がりを最大限活かし、オンラインでも今できることはすべて行うことができました。実際に現地に渡航しての海外FWを完全に代替するものではないですが、新たな海外FWの可能性を今年も見出すことができたオンライン海外FWであったと思います。かつ、今年度は、フィジーという新しい海外フィールドワーク先も開拓できて、こんなに嬉しいことはありません。関係者の方々には、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

文責：政策学部教員 岡本由美子

2023年度フィジー海外FWの概要 (2023年8月22日～29日まで実施)

日付	曜日	地域	フィジーにおける訪問機関	協力形態
8/23	水	首都スバ	在フィジー日本大使館	ODA
8/24	木	首都スバ	南太平洋大学 (USP) (JICAフィジー事務所)	国際交流
8/25	金	首都スバから1.5時間	River Rafting Fiji (エコツーリズムサイト)	外資
8/26	土	北部フィジー	日本人のカカオ契約農園とチョコレート工場	Fairtrade
8/28	月	アンバサ村 (Nadi)	アンバサ村エコツーリズムサイト	ODA → 自立へ

8

2023年度ウガンダ海外FWの概要 (2023年9月6日～11日まで実施)

日付	曜日	地域	ウガンダにおける訪問機関	協力形態
9/6	水	首都カンパラ	JICAウガンダ事務所	ODA
9/7	木	首都カンパラ	マケレレ大学開発学部	国際交流
9/8	金	グル(北部ウガンダ)	北部ウガンダ生計向上支援プロジェクト(UFLIP)	ODA
9/9	土	ムバレ(東部ウガンダ)	ブフンボ有機小規模農家組合(OFA)	Fairtrade
9/10	月	ワキノ(首都近郊)	マバンバ湿地エコツーリズム協会(WETA)	CSR

5